名北の空の下

署長室から

30

名古屋北労働基準監督署長　鈴木章之（すずき あきゆき）

ぬちどぅたから
～ウチナー（沖縄）にて【PART2】～

平成27年8月号では、琉球舞踊三線演奏の無形文化財伝承者の指導により、どうにか合奏できるようになったところまでを紹介した。

本当に凄い人であったことを、少し披露する。

彼は、三線を通じて沖縄県内の多くの芸能関係者とも親交が深く、例えば、NHKで放映された「ちゅらさん」のオバー役の平良トミさん（夫妻）とも旧知の仲であったし、また、記憶として特に残っているのは、かなり前のことにはなるが日曜の午後8時から放映されたNHKの大河ドラマ「琉球の風」の製作に当たり、出演者がドラマで奏でる三線の指南役を懇願されたこと。

我々の誇りであった彼。さらなるステップアップを目指していた矢先であった。

11月13日土曜早朝、彼の急逝を知らせる訃報。愕然とした。訃報を伝えた職員と電話口で無機質な会話を繰り返した記憶が残っている。范然自失であった。その死を受け入れられないまま、ご遺体が安置されている浦添市に向かった。

享年48歳。間もなく49歳を迎えようとしていた若過ぎる死。

病名は、くも膜下出血。奥さんから病名を聞いた時、「過労死」という言葉が過ぎった。くも膜下出血は脳・心臓疾患の労災認定基準の対象疾病のひとつ。温厚、聞き上手で、誰とも分け隔てなく付き合い、皆に親しまれていた。仕事も三線も一生懸命で、時間を厭わなかった。将来、三線の第一人者として琉球音楽を背負って活躍することが期待されていた彼を死に追いやったのは何か、過長な長時間労働が要因となったのではないか、健康管理、労働時間管理は適切だったのか。

名護署管内の伊平屋村にある琉球松（伊平屋島のシンボル）

眠れない夜が続いた。いつも身近にいてくれたとっても大切な仲間、親友であり、師匠であった彼を失った衝撃はあまりに大きく、長い間気持ちの整理がつかなかった。あれから10余年が過ぎたが、未だに彼の影を引きずり続けている。

疲労の蓄積による過重負荷をもたらす重要な要因である長時間労働の削減のための取組は、喫緊の最重要課題である。全ての職場において、過重労働による健康障害防止のための対策を強化、徹底しなければならない。

一人ひとりを思いやり、大切にすること、生きがいをもって働き、活力溢れる職場であること。安全、健康で安心して働くことのできる環境整備に全力を尽くさねばならない。数えきれないほど死亡災害の現場に赴き、ご遺族の叫びを聞いた。労働災害は決してあってはならない。

「命どう宝（ぬちたから）」……命こそが何よりも一番大切な宝。

彼が逝ってから弾かなくなった三線。まるで役目を終えたかのように、今、弦は切れ、胴の皮が破れたまま、ひっそり部屋の片隅に。